

いしかりの水道

第3回
テーマ

水道の家計簿 ①水道料金

水道水を市民の皆さんのお家庭に送り届けるには、多くのお金がかかります。そして、そのお金は皆さんからの水道料金によってまかなわれています。水道料金は、家計で言えば毎月の生活費をまかなう給料に当たるもの。今回は、水道の家計簿のうち、大切な収入である水道料金についてお知らせします。

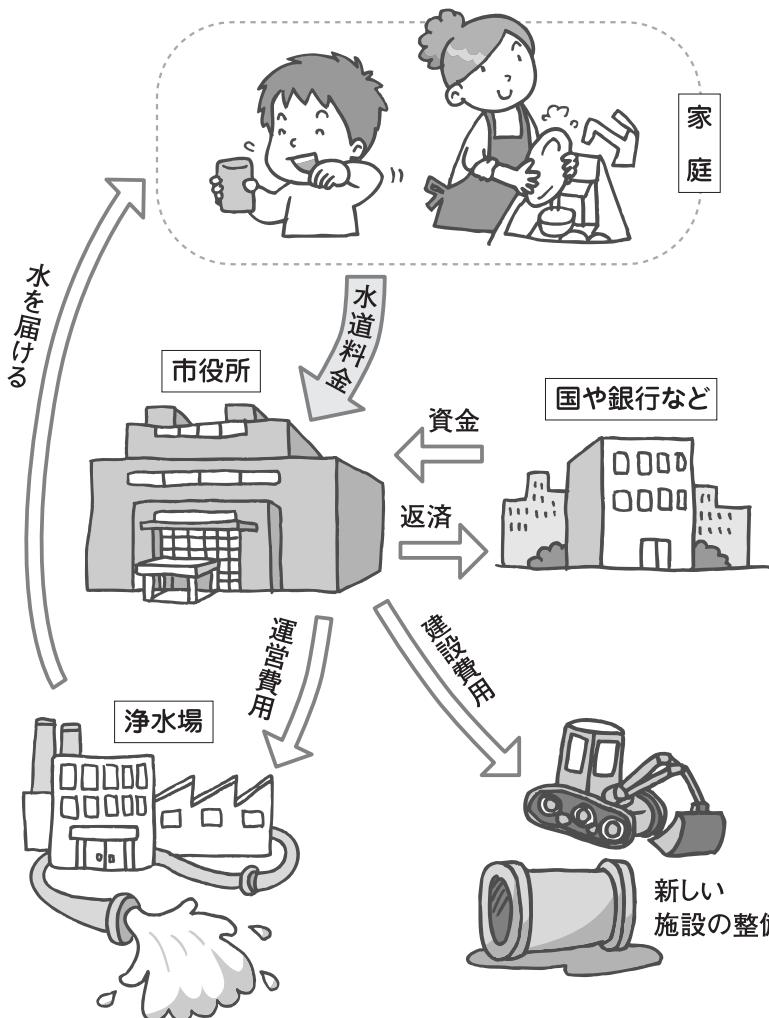


図1 水道料金は水道の経営を支える重要な収入となっています。

●水道事業を支える 水道料金

皆さんに水道水を供給するには、浄水場や配水管など数多くの施設や設備が必要ですが、整備開始の時点では十分なお金がありませんので、家計の住宅ローンに当たる長期の借入金によって資金の工面をすることがあります。

また、建設した施設の運転や維持管理にも人件費を含め多くの費用がかかります。これらは、家計に例えると食費、水道光熱費など、日常生活に必要なお金に当たります。

こうしたローンの返済費用や施設を毎日運転する費用は、私たちの生活費に当たり、これらをまかなう給料の役割を担うのが、皆さんからの水道料金であり、水道の経営を支える重要な収入となっています(図1 参照)。

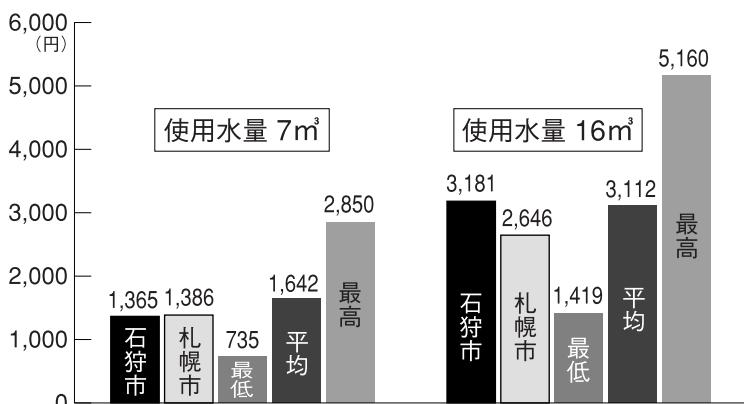
●道内でも平均的な 料金設定

現在の石狩市の水道料金は、消費税の導入に伴う変更を除けば、昭和60年から基本的に変わっていません。実に20数年間も料金は据え置かれているのです。

これは、人口増大により順調に収入が増加する中でも、業務の外部委託化や工法・施設規模の見直しによる工事コストの縮減などにより経営効率を高めつつ、最近ま

で黒字経営を維持してきた結果、料金改定が今まで議論とならなかつたからです。
それでは、石狩市の水道料金について、左のグラフで具体的に見てみましょう。

まず一般家庭で、基本水量の 7m^3 を使用した場合の料金は、全道108事業体のうち高い方から74番目です。平均使用水量 16m^3 を使用した場合では52番目で、必ずしも石狩市の料金は、ほかの市町村と比較して高いわけではありません。一人世帯のように使用水量が少ない(7m^3)場合では平均より安く、使用水量が多くなる場合(16m^3)では、平均より若干高くなっています。

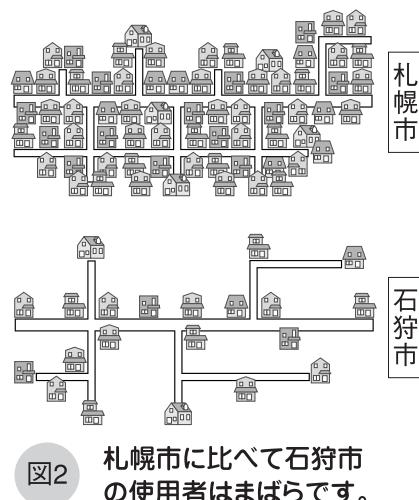


石狩市の水道料金は他市町村に比べて特に高いわけではありません。

ここでは、市町村によって料金が違う理由について、札幌市と石狩市を例に比較してみます。

①事業効率の違いによる要因

ひとつの例を挙げますが、配水管1km当たりの水道使用戸数を見ると、札幌市の15戸に対し石狩市は42戸であり、3分の1以下の数となっています(図2参照)。つまり、配水管を1km整備しても料金収入に結びつく使用者が少ないので、それが事業効率も低く、結果として相対的に費用が大きくなり、料金に影響を与えます。



札幌市に比べて石狩市の使用者はまばらです。

(2)地形的な要因
札幌市は、主な水源が定山渓の山間部にあり、給水区域の大半が水源よりも低地にあることから、自然流下により水を

●どうして市町村によつて料金が違うの?!

供給することができます。対して石狩市は、一部の地域を除き水源の大半が地下水であることから、配水場のポンプで圧力をかけなければ水を供給できないといった事情があります。つまり、ポンプ場の建設費用やポンプを動かす電気代などが余計にかかるわけで、こうしたことも料金が高くなる要因のひとつです。

③施設等の整備時期の違いによる要因

札幌市の水道事業は、昭和12年から給水を開始していますが、石狩市の水道事業は、昭和48年給水開始です。この年にはオイルショックがあり、その影響で翌年には消費者物価指数の上昇率が23.2%に達しました。

つまり石狩市は、札幌市より相当遅れて施設整備をしており、物価の高騰などの影響により工事費用が高くなっていることも料金を押し上げている一因なのです。

このように、水道は原則としてそれぞれの市町村が運営することから、そのまちの施設整備の時期の違いや、地形的要因、人口、社会経済情勢などがさまざまに関係し合い、それらが水道料金に反映するため、まちによって違いが生じているのです。

(つづく)

* * *

次回も引き続き「水道の家計簿」についてお知らせします。